



# 名南デンタルだより



発行：名南税理士法人 歯科プロジェクト  
〒456-0031 愛知県名古屋市熱田区神宮二丁目2番2号 TEL：052-683-9143 FAX：052-683-9106

歯科衛生士としての責任とやりがい 10

## 歯肉出血の意味

歯科衛生士のMが歯周病における「BOP率=炎症指数」について説明したのは次のような内容です。

歯肉からの出血は歯肉に炎症が起きているという大事なサインで、本来健康な歯肉からは出血はしない、出血してはいけない。  
この男性患者のBOP率は85%で、歯肉の炎症はかなり広範囲に進行している。  
検査時の出血はドロッと黒ずんでおり、部位によっては膿も混じっていた。これは炎症状態が重篤で、細菌の量が多く細菌の活動性も高い証拠。  
歯肉の炎症を治す方法には大きく分けて二つあり、その一つは「歯磨き」を上達させること。これが出来なければ治療の効果は期待出来ないとってもよいほど大切であり、歯磨きはエチケツトという域を超えて歯周病の原因となっている細菌を除去するための欠かせない大事な治療とも言える。  
もう一つは「歯石取り」で、端的に言えば、歯磨きでは取りきれなかった口の中の汚れ=プラークが固まって歯石(細菌の塊り)となっているので、歯石を取ることはとても重要な治療である。歯石には歯肉の上に付いた「縁上歯石」と、歯肉の下(歯根)に付いた「縁下歯石」があり、これら上下とも一掃してきれいに取ることが治療の成否を決める。

Mの説明に対して男性患者は熱心に耳を傾け、「こんなこと初めて聞きました」とますます目を丸くしていきます。Mが歯科衛生士として担当する次回からの歯周病の治療計画を話し、内容の濃い「説明の日」の1時間は終わりました。

## 「歯科衛生士としての責任とやりがい」を裏付けるもの

視覚的な世界を言葉で表現することに四苦八苦しながらこの原稿を書いています。私の文章力など知れたものです。実際に、読者の方にどれだけのお伝えできているかわかりませんが、今回モデルとして登場してもらっている歯科衛生士MIは、私の指導を受けるようになった6年前から、本当によく勉強していると思います。私はまさに開花寸前ま

で来ていた彼女に、やる気のスイッチがオンになる“きっかけ”を作ったに過ぎません。MIは、海外の研修を受けるために自費でスウェーデンに行き、日本歯周病学会の認定を取り、そして今は、私の下で「Jokanスクール」のアシスタント講師をしています。僭越ながらご参考までに書かせて頂きますと、「Jokanスクール」のアシスタント講師になるということは決して容易なことではありません。スクールの修了生であることは当然で、その後まずサポーターというスタッフになり、それから年1回7月に実施している認定試験を受けます。この試験は2時間の筆記試験と1時間余りの実技試験を行いますが、筆記試験も実技試験もかなり難しい内容です。そして、私が最も大切にしていることは知識や技術の前に、人間としての力、つまり人間性です。このことについては常日頃からその人の状態をよく見ているつもりですが、実際に人間性に未熟さを感じ、認定試験の直前で1年延期した例もあります。ちなみにその歯科衛生士は卑屈になることもなく、医院の仕事もスクールのサポーターも実によく頑張っています。彼女の来年の認定試験の合格を祈るばかりです。

熊谷崇先生が言われるところの患者様にとっても自分自身にとっても理想の歯科衛生士「マイハイジニスト」と呼ばれるためには、人間性と知識と技術のバランスのとれた自己研鑽が欠かせません。歯科衛生士としての責任とやりがいは、医療者としてこの3つのバランスに裏付けられたものに他ならないと私は思っています。

## 現実の向こうにあるもの

歯科業界は今、惨たんたる状態です。歯科大学の定員割れの状況は存続を危ぶまれるほどですし、歯科衛生士の養成校に至っては“自分の名前が書ければ入れる”といった情けない状態が各県で起きています。それでも案外、臨床現場には元気な歯科衛生士がたくさんいます。各学会で実施している「認定制度」が人気で、最近ある学会では歯科衛生士の教育講座に1,000人も受講者が殺到したと聞きました。これこそ多くの歯科衛生士が厳しい現実の向こうにあるものを夢に見て、頑張っている証なのです。

フリーランス歯科衛生士  
上間 京子